Management Club Report

Aug.2016/Vol.164

Monthly Opinion ≪人を輝かせながら生かす医療を≫

今年のテーマは『輝かせ、そして輝け！』です。言うは易く行うは難しで、意気込みは分かるもののどうやったら輝けるのかという具体策になると答を見出すことは中々容易なことではありません。

そのヒントとして、先月は歯科医院が担う社会的使命を明確に自覚し、歯科医院自体が高遠なる目標をまず持つことが必要であることを述べました。些か大上段過ぎるかも知れませんが、それは「女性が働きやすい社会の一翼を担う歯科医院」であり「一億総活躍社会をサポートする歯科医院」といった国家的スローガンに沿った目標でなくてはならないという主張でした。日頃より口に出し、多くの歯科医療人の共感も得ている「口腔内は狭い世界だが、その改善がもたらす効果は限りなく大きく広い」という言葉の意味するところは、実は国家的スローガンにも合致しているのではないでしょうか。

いつまでも「あなたの笑顔が見たいから」とか「すべては患者様の笑顔のために」といった小さい世界に留め置かず、“限りなく大きく広い世界”に飛び出てもらいたいと考えています。具体的な対策はその気持ちの切り替えが完了し、覚悟が定まってからにしましょう。なぜならベースの強固でない具体策は砂上の楼閣となる危険性をはらんでいるからです。

1 ようやく本格稼動し始めた医科歯科連携の余波

一般医科の院長を相手に行った歯科医院向け経営セミナー

医科のドクターたちがマネジメントのあり方を歯科に学ぼうとしている気配を強く感じる、ということを今月前半のメールマガジンでお知らせしました。

私は、場違いにも自分がメディカル系の院長を対象とした経営セミナー講師として招かれた講演会での話が、聴講者満足を高めることができたことに満足を感じもしましたが、同時に大きな驚きをも感じました。

「医科を知らない私に医科の経営を語る資格はないし、実際に語れない」といって断ったにも拘らず、主催者である会計事務所の「競争の激しい歯科の経営コンサルタントの経営論こそ医科の各クリニックにとって格好の羅針盤となる」との考え方に押され、半ばやけっぱちの心境で語った『歯科医院経営をベースにしたクリニック経営論』が予想外の好意をもって迎えられたことはまったく驚きというほかはありませんでした。